

所感に代えて : Bonne chasse!

永田, 英一

<https://doi.org/10.15017/2332721>

出版情報 : 文學研究. 74, pp.1-6, 1977-03-30. 九州大学文学部
バージョン :
権利関係 :

所感に代えて

— Bonne chance ! —

永田 英 一

「思い出の記」を書くようにと求められたが、在籍期間があまりに長かったためか、『文学研究』関係だけに限ってみても、題材の撰択に困惑するばかりである。そこで、先日来訪した卒業生を相手に話したく本探しのくだりを綴って責をふさぐことを許されたい。

幸運を祈るぐところをフランス語で *Bonne chance !* という。英語なら *Good Luck !* であろう。さて、*Bonne chance !* とは——

一九五九年の夏、私はジュネーヴの高台にある某ホテルを本拠にして、ルソーの文献資料の収集やルソーの遺跡めぐりに余念のない日々を過ごしていた。そんなある日、ジュネーヴの旧市部の狭いショードロニエ通のストラトキヌ書店で、——今日ストラトキヌといえば覆刻書の出版社として知られているが、当時は普通の古本屋で、よく似た親子が経営していた——購入予定の書物を取っておいてくれるよう頼んで、店を出ようとした時、ムッシュー！ と見知らぬ人から声をかけられた。先程から伺っていると、あなたはルソーとかヴォルテールとかの名をあげて、本探しをしているようだが、そうした作家に関心があるのか。わたしはボルドー大学の者だが…… と親しげに話しかけられた。ボルドー大学の同業ときいて、私も少し話してみたいと思ったが、折悪しくルソー遍歴の汽車の時刻が迫っていたので、私は急がねばならなかった。と、その人は私の手を両手で固く握りしめながら、別れのあいさつをした。

所感に代えて（永田）

——*Bonne chasse*！わたしは *Bonne chance*！とはいわなす。あえて *Bonne chasse*！とさす。……
*Chasse*とは狩猟の意。いかなれば本狩りの成功を祈ってくれたのだった。

*

スラトキーヌで保留を頼んだ書物というのは、ルソーの『山からの手紙』(一七六四年)とヴォルテールの『詩作集』(一八三二年)の二冊だった。前者はアムステルダム発行の『ルソー著作集』の中の一冊ながら、初版本と同年刊行のもの、後者はヴォルテールの戯曲を含む韻文の全作品を一巻に収めた珍しい版で、特に「印刷術愛好者に献げられた」ものだけに、上質の用紙に精巧繊細な活字、それに装幀も渋くて、なかなかの逸品である。

ジュネーヴでは、ジュリアン書店でも、主人の好意から種々便宜を与えられた。ここは『ルソー協会年報』(既刊三八巻)の発行所で、私は最初、戦時中に中断した仏文研究室への納入を復活させるために訪れたのだったが、その折、残部僅少の中からガスパール・ヴァレット著『ジュネーヴ人ジャン・ジャック・ルソー』(一九一一年)を頒けて貰った。この書はルソー研究史上画期的ともいべき著作で、その序文冒頭の句は、私の好んで引用するところだ。曰く「フランスの偉大な作家達の中で、ルソーの第一の独自性、そして最も本質的なもの、それはフランス人ではなくて、ジュネーヴ人であるということだ。」

ジュネーヴでは、また、あまりの幸運に戦慄した一件もあった。――

某日、ジュネーヴ大学の周辺を散歩中、とある坂道に沿うた小さな本屋が目にとまり、早速、中へ入ってみた。そしてルソー関係のものはないかと尋ねると、店主は別置のガラス・ケースを指差した。その中の一冊を手にとり、私は驚いた。ジャコブ・ヴェルヌ作『ルソーのキリスト教についての書簡』(一七六三年)の初版なのだ。和本風の優雅な装幀、中味も新品同様の完璧さ、とても二〇〇年の歳月をへたものとは信じられない。しかも見返しに記さ

れた値段は二フラン（もちろんスイス・フランで、約一六〇円）だ。……私は高鳴る胸の鼓動を抑えかねた。そして努めて平静を装いながら、支払いをすませると、滑るように表へ出た。あとはク脱兎の如くククといいたところだが、そこは、ゆっくり走ろう！ FBIに掴まるかも知れない。……（というとき客人は大いに笑う。）

この書はジュネーヴ側（カルヴィニスト）の代弁者として、ヴェルヌ師がクキリスト者ルソークを断罪した作で、私の年来の関心に直接つながるものだが、その原本をこうして掌中にするとは、夢のまた夢であった。

ルソーの宗教観に対する反論の書としては、フランス側（カトリック）の代表的な著作も、パリで入手した。アベ・フランソワの『ジュネーヴ市民ルソーによって提出されたキリスト教に対する異議への回答』⁶⁾（一七六五年）だ。これまた新品同様の初版本で、犢皮の装幀もしっかりしている。

そういえば、かくもゴウゴウたる論議を呼んだ、そもその根源——ルソーの『エミール』（一七六二年）もまた、その初版と称しうべきものを私はパリで手に入れた⁷⁾。というのは『エミール』の版本については、アムステルダムやヘーグのネオルム版、パリのデュシェーヌ版など、種々複雑な事情があって、にわかに断定しがたい節がある。また、最近かの地でク初版クと看做されているものと私蔵のものとは、一点——本扉の花模様（Fleuron）が異なっている。とまれ、この件については、今はこれ以上のべない。ルソーの他の作品についても割愛しよう。

*

アンドレ・シェニエの作品についても、私は常時コシタンタンとしていた。シェニエの版本といえば、何と云っても、一八一九年八月刊行のラッーシュ編『アンドレ・ド・シェニエ全集』⁸⁾だ。しかし、これこそ稀観本中の稀観本であって、これを市中に求めるなど、痴人の空夢にひとしい。私がパリの書店でお目にかかった最も古いものは一八二

二年版だったが、これは非売品と称して頑強に拒否された。そして散々彷徨した揚句、私の手中にしたのは一八四〇年刊のシャルパンティエ版⁹⁾である。あの氣むずかしい詩人の甥、ガブリエル・ド・シェニエの編集校訂した『アンドレ・ド・シェニエ詩集』¹⁰⁾三卷（一八七四年）は、セーヌ河岸の古本屋で手に入れた。シェニエ研究に半生をささげたベック・ド・フーキエールの諸労作も、大体揃えることができた。ポール・デイモフについては、いうまでもない。

アンドレの弟、マリ・ジョゼフのことも、終始、頭の隅にあつた。マリ・ジョゼフは生前、華やかな詩人、劇作家、また政治家であつたが、歿後は急速に影がうすくなり、まともな作品など今に残っていないよう筈がないと思われた。ところが、最初の滞在地リヨンに落ちついて間もなく、晩年の作『一七八九年以降のフランス文学概観』¹¹⁾（一八三四年刊）を掘り出し、ついで豪華版の『作品集』¹²⁾（一八三九年）をも獲得した。ただし、後者はジャン・フランソワ・デュシスとの合綴本で、計七〇五ページのうち、マリ・ジョゼフの作品（劇、詩）は三五〇ページを占めている。

さらに、シェニエ兄弟の母——パリでみずからサロンを開き、大いにギリシャ風を吹かしていた、あのクギリシャ美人ク——マダム・ド・シェニエの文集をもク拾得クした。これはまったくの偶然というか、あるいはインスピレーションとでもいうか、一九六〇年四月、帰国を控えての慌しいある日、カルティエ・ラタンを急ぎ足で歩いていると、フト本屋の店先に積みあげられたゾッキ本の山が目に入り、思わず手にとった一本が、何と！ ロベール・ド・ボニエール編『シェニエ夫人のギリシャ便り』¹³⁾（一八七九年）なのだ。これには私も啞然とした。この書の仮扉には、編者ボニエールの自筆の献辞さえ誌されている。

*

Bonne chasse の喜びは大きい。長年の強い関心の対象にめぐり逢った時の、あの感動は名状しがたいものだ。けれども、前述のような僥倖や靈感の類は、例外中の例外であって、時には危険な苦行をみずからに強いることさえある。

リヨンに滞在中、私はありとあらゆる書店をあさり歩いたものだが、ある時、ソーヌ河畔の古本屋のうす暗い書庫の中で、数時間、立ちづめで探索したあと、店を出て数歩あゆむや、突如、はげしい目眩に襲われた。そして消えゆくおのが意識の点滅をかすかに知覚しながら、橋の欄干にしがみついて、危うく一巻の終りくを免れたことがあった。また獲物を自分で梱包し、肩にかついで、ブロットー駅の貨物掛まで運んでいったのも、今はなつかしい難行の一コマである。

かくてルソーとシェニエに関するものだけでも、それぞれの想い出を秘めて、相当量の成果をえた。これにフランス、スイス、イギリスなど、かの地の先達や知人から贈られた専門書の数々を加えるならば、ささやかな私の余生を充たすには十分すぎる。少なくとも、老後のオモチャには事欠かないであろう。

—— 悲しき玩具々ですぬ！

と客人は、すかさずいった。若い人は、時に余計なことをいうものである。

最後に、長年お世話になった『文学研究』の一層の発展を祈るとともに、御指導、御交誼を賜わった恩師、同僚、友人の皆様にご厚く御礼を申しあげる。(昭和五十一年十月稿)

- 1) *Lettres écrites de la Montagne, par J.J. Rousseau*, Amsterdam, Marc Michel Rey, MDCCCLXIV. In-12.
- 2) *Oeuvres poétiques de Voltaire*, Édition dédiée aux Amateurs de l'art typographique, Paris, Lebigre frères, 1832.
- 3) *Annales de la Société Jean-Jacques Rousseau*, Genève, Jullien, 1905—
- 4) Gaspard Vallette, *Jean-Jacques Rousseau Genevois*, Genève, Jullien, 1911.
- 5) *Lettres sur le Christianisme de Mr. J.J. Rousseau, adressées à Mr. I.L. par Jacob Vernes, pasteur de l'Église de Céligny*, Genève, Etienne Blanc, M.DCC.LXIII. In-8°.
- 6) *Réponse aux difficultés proposées contre la Religion chrétienne, par J.J. Rousseau, citoyen de Genève, par M. l'Abbé François*, Paris, Babuty, M.DCC.LXV. In-12.
- 7) *Émile, ou de l'Éducation, par J.J. Rousseau, Citoyen de Genève*, Amsterdam, Jean Néaulme, MDCC.LXII. 4 vols, in-12.
- 8) *Oeuvres complètes d'André de Chénier* (publiées par H. de Latouche) —Paris, Baudouin frères, Foulon et compagnie, 1819. In-8°.
- 9) *Poésies d'André Chénier*, précédées d'une notice par M. H. de Latouche, suivies de notes et jugements.....Paris, Charpentier, 1840. In-8°.
- 10) *Oeuvres poétiques d'André de Chénier*, avec une notice et des notes par M. Gabriel de Chénier, Paris, Lemerre, 1874, 3vols.
- 11) *Tableau historique de l'état et des progrès de la littérature française depuis 1789*, par M.J. de Chénier, Paris, Ledentu, 1834.
- 12) *Oeuvres de J.F. Ducis, suivies des Oeuvres de M.J. de Chénier*, Paris, Ledentu, 1839. 25.5×16.7cm.
- 13) *Lettres grecques de Madame Chénier*, précédées d'une étude sur sa vie par Robert de Bonnières, Paris, Charavay frères, 1879.